

科目名	年	組	番	氏名	評点
演奏研究 I	第 1 回			解説 1	

I 演奏をおこなう前の準備について、次の各問いに答えなさい。

以下のチューニング解説内にヒントが書かれています。よく読み答えを導きだしましょう。

・一人一人のチューニング

合奏の第一歩は「音を合わせること」に始まります。各メンバーのピッチを揃えるだけでなく、聴く力や基本的な奏法にもプラスになるようなチューニングをしたいものですね。また効率よくできるよう、あらかじめ楽器の順番を決めておく『チューニング・リレー』をしてみましょう。

例えば・・・Bass Cl. → Fg. → B.Sax. → B.Trb. → Tuba → St.Bs. → Euph. → Trb. → Hrn. → T.Sax. → A.Cl. → Trp. → A.Sax. → Cl. → Es Cl. → Ob. → Fl. → Picc.などの順で、2～3巡させます。

チューニングの手順として、

1. 吹奏楽の場合ハーモニーディレクターをA=442ヘルツに合わせ、木管系の音色を選択しB♭の音を伸ばす。
2. メトロノームのテンポを4分音符=60にセットし、ビート音を鳴らします。
3. 上の例に挙げた順番で、ひとりずつB♭音を合わせます。このとき一人につき2拍吹きます。待っているときにハミングやマウスピースを使って、バズィング等で音をとることなどは効果的です。

※出遅れないようにテンポを確認すること、次の人にリレーする瞬間までしっかり音を保つことを意識します。

拍数の制約のなかで音を合わせることによって、奏者は音を出すだけでなく、音程感に加え、ブレスや音の長さ、音の処理、テンポ等アンサンブルの基礎的な内容にも注意を払わなければなりません。なにより一人だけで演奏する緊張感があります。

※慣れてきたら、各自で基本的な奏法の注意点も確認します。たった2拍間ですが、貴重な個人の時間にもなります。一人一人の音を注意深く聴き個々の状況を把握しましょう。

※このチューニング・リレーにかかる時間は少しですが、「毎日積み重ねること」を大切にしてください。チューニングは個々で合わせるのが基本ですが、時間があれば1つの音だけでなく、様々な音程や楽器の特性を考慮したパターンを作ってトレーニングも兼ねて行いたいですね。

※また、オーケストラなどのチューニングはAが主流なので、Aでも合わず練習をしてみると良いでしょう。

セクションのチューニング

個人の音合わせの後には、セクションでのチューニングです。上記に加え『周りを聴いて合わせる』ことが必要になってきます。

下記の組み合わせ例(1)や(2)のグループごとに2～3回チューニングをしていき、最後に全員でB♭を合わせます。成果はどうですか？はじめは「合わなくて当たり前」です。何度も挑戦しましょう。合わないからといって弱く吹かないようにしてください。「よいイントネーションは正しい振動(奏法)から」生まれます。

科目名	年	組	番	氏名	評点
演奏研究 I	第 1 回			解説 2	

II 楽器の名称や特性について、次の各問いに答えなさい。

別途配布プリント『木管・金管・打楽器の音域表』を見て、
 楽器名、移調楽器、分類、音域を書き込みましょう。
 ※音域は8va (オクターブ記号)も忘れずに記入すること。

III 次の曲は何分の何拍子ですか。()に書きなさい。

普段、自分が演奏している楽譜を見て、拍子を調べてみましょう。